

児童福祉施設支援者研修「劇あそびによるソーシャルスキルトレーニング」

特定非営利活動法人 こじいの森・こどもの時間（とき）

〒885-0044 宮崎県都城市安久町 2546 番地 1

助成事業の概要

子ども達及び支援者が、本格的なドラマ法のワークショップを体験・実践する機会をつくることで、その重要性を周知し、ドラマ法を学んだスタッフが今後、児童クラブや保育園等で実践できるようにする。

11月下旬～12月中旬ワークショップ開催に向け、広報等準備を開始する。翌1月下旬、ワークショップ開催。

- 1月28日（木）13:00～15:00
国富町三名保育園 年中児 23名
年長児 21名
お話を聞いて、絵やお話の続きを作る表現活動。
- 1月28日（木）18:00～20:00
国富町三名保育園 支援者 27名
園児の表現活動を通して、子どもの行為をどう見るかについて子どもの発達を中心に考えていく。
- 1月29日（金）10:00～12:00
都城市神柱児童センター 支援者 17名
日本の昔話を通じ、絵やお話を作る表現活動をグループに分かれてした後、人間同士のコミュニケーションについての講和。
- 1月29日（金）18:00～21:30
都城市安久児童館 支援者 24名
外国の昔話を通じ、絵やお話を作る表現活動。
- 1月30日（土）10:00～13:00

都城市安久児童館 学童 25名 支援者 15名

お話を聞いて、絵やお話の続きを作る表現活動。

子どもの活動終了後、支援者対象振り返り実施。 90分程度。

事前に、チラシを作成し公共施設（市役所、図書館等）や保育所等へ配布し告知した。

のべ152名参加。

事業の成果

都城市内児童館や国富町保育園において、子ども対象、支援者対象を含む5回にわたるドラマ法ワークショップをすることができた。また保育園や学童クラブの協力をもらい、現場の子ども達に外部講師に直接実践してもらう機会が得られた。そして必ず講師による支援者対象の振り返りがあることで、すぐに現場に活かせるより充実した研修にすることができた。また昔ばなしを題材にすることで、お話をより身近に感じることができた。お話を聞いた後で、何を描いてもよいという声かけから子ども達が描いた絵には、直接聞いたお話との関係性が感じられないこともあったが、聞いたお話とどこかにつながりがあり、子ども達なりに考えて描いたものであることを学んだ。体験を絵にする（表現する）ことで、子ども達は開放感を味わい、そこに評価がないことで安心感や大人に対する信頼感も育まれることがわかった。

また、支援者同士のワークショップでは、お話に関する話をするだけで、そこには職場間の上下関係や仕事の話は全く関係なく平場の関係性が作られる。まさに参加者同士が平等な立場で、話を進めていくことができた。グループに分かれていることで、少人数の安心感があり、話したい内容をその場に合わせて要領よく話していくことができるので、お互いに気持ちよくワークショップに参加することができた。人間関係を築く上で、平場の関係がいかに大切であるかを痛感させられた。

また、文学に親しむ様々な方法を学ぶこともできた。大人の場合、ほとんどが各自の体験をもとにした話が創作される。自分の体験と昔話を重ね合わせるといふ文学としては、最上級の楽しみ方を経験することができたように思われる。

このワークショップに参加することで、支援者として子ども達との実践に使えるような文学作品を読むことの必要性も感じられたに違いない。そのことが、支援者として語彙力を増やすこと、自己表現力を豊かにすることが、保育の質を高めることに繋がっていく。

以上のことから、様々な効果が考えられる今回の研修会での学びを、支援者である大人が現場の子ども達との関わりの中でぜひ生かして欲しいと願っている。

成果の広報・公表

助成決定後に、都城市内及び三股町を含む宮崎県内や末吉・財部町（鹿児島県）の公共の施設や市民や県民が立ち寄りそうな箇所へ告知して回る。忙しい時期ではあったが、保育園等へもできるだけ告知しに行った。都城市内児童館でも、利用者を中心に参加を呼びかけた。

今後、会で不定期に発行しているフリーペーパーや広報誌等をはじめ市子ども課の協力をもら

いHPにおいて成果を発表し、一般市民や地域の人々へも、文学がいかに子ども達の発達にとって重要であるか、またそのアプローチについてはより日常に近い形で実現できる方法があることを広報していきたい。

また、実際に講座を受講した参加者の中には、再度バログさんの研修を受講したいという希望があり、各活動場所、実践場所における研修で実施したいという希望もあったので、今後支援者対象の様々な研修の場においても、今回学んだコミュニケーションを円滑に行うための手法を活かしていくことができる。

今後の展開

都城市内や近郊地域において、ドラマ法ワークショップ研修会をすることで、コミュニケーションの基本となる豊かな自己表現力を身につけるスキルを支援者間に広めることができた。またそれぞれの支援者が現場の子ども達との実践に活かし、文学にふれることで自己表現する方法を伝えることが可能になる。そして題材となる昔話や詩等の文学にふれ自分達のものにする機会が増え、語彙力（言葉）を豊かにすることになる。それにより、子ども達がお互いにうまく人間関係をつくれるようになり、社会性が育つ。すなわち、自己表現が豊かであることが生きていく上でどれだけ大切であるか、わかる支援者が地域が増えて、子ども達の健やかな発達が促されることになる。

今回の講座参加者がそれぞれの現場の子ども達や支援者の間で、お話を題材に実践できる力がより高まるようなフォローを続けていきたい。そのためは、学習会や研修の場を地域に提供し続けていくことが求められる。